

生物資源科学部だより

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6499 E-mail: lif-jimu@office.shimane-u.ac.jp

Vol.29

発行 2019年 1月



平成30年度保護者会を開催 150名が来学

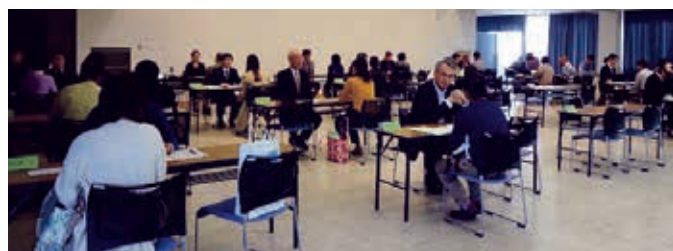


実験室の説明

11月3日(土)に平成30年度保護者会を開催し、県外を中心に150名の保護者の方にご参加いただきました。

午前中は、農林生産学科・農林生態科学教育コースと地域環境科学学科の研究室紹介を行い、それぞれ、講義室や研究室の様子を紹介しました。参加された保護者の方からは、「実際勉強している研究室を見ることができて良かった」などの感想をいただきました。

午後からは大学ホールにおいて学部説明会とキャリアセンター講演会を開催しました。始めに井藤学部長が、平成30年度の学部・研究科改組について説明を行い、続いて、武田学生委員長が、本学で実施している学生支援について紹介を行いました。その後、



個別面談の様子

キャリアセンターの丸山准教授が、「島根大学のキャリア教育と就職支援」というテーマで最新の就職・進学状況、本学で実施している就職支援の内容や大学院進学について、説明を行いました。

その後、大学会館で、保護者と指導教員の個別面談を実施しました。この企画は、学生の日常を知ることができる機会として、保護者の皆様からご好評をいただいているものであり、今年度は44名の教員が対応にあたり、「普段の子どもの様子がわかって良かった」「不安に思っていたことが解決してとても有意義でした」などの感想をいただきました。また、キャリアセンター教員2名による就職・進路相談を行い、保護者の方の就職・進路に対する悩み・心配事などを伺い対応にあたりました。

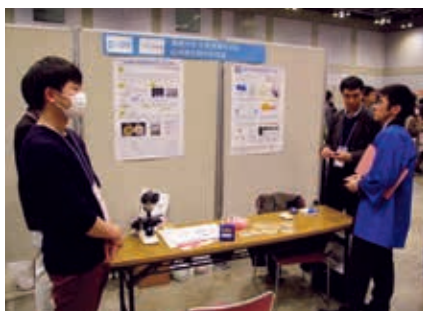
『キャリアセミナー&大学院進学説明会』を開催

今年度は、6月、7月及び10月にキャリアセミナー&大学院進学説明会を開催しました。本企画は、本学の大学院修士課程生やキャリアコンサルタントを外部講師として、学生のキャリア形成と大学院進学率の向上を目的に定期的で開催しているもので、学部3・4年生を中心とした多くの学生が参加しています。学生にとっては、自身のキャリアを考える良い機会となっています。今後も、学生のキャリア形成を高めるための企画を開催する予定です。保護者の皆様におかれましては、お子様の大学院進学をご検討いただけますようよろしくお願いいたします。



「しまね大交流会2018」に参加しました

昨年に引き続き、今年も2018年12月15日(土)くにびきメッセ(松江市)において開催された、「しまね大交流会2018」に、生物資源科学部からは6団体が参加し、ブースを設けて日ごろの教育や研究に関する発表を行いました。参加した学生は、県内の企業のブースを回り、仕事内容について詳しく説明を受けていました。参加者が2,000人を超える大きなイベントで、たくさんの貴重な情報を発信し、また得ることができました。



生命科学科 1年生

後期も全学共通科目と基盤科目を主として学んでいます。生命科学基礎セミナーIIでは、5~6名の学生を1人の教員が担当し、学生が主体となり、興味のある生命科学現象に関する情報を本や科学論文などで調べています。最後はグループ内での発表会が予定されており、科学的表現力やプレゼンテーション力、質疑応答の方法などを養います。この講義内では、西川学科長から2年次からのコース分けについての説明もありました。(児玉准教授)



旧生物科学科 2~4年生

2年生は、セミナーIIが始まりました。学生5人に1人の教員がつき、英語の論文を読んだり、基礎的な調査や実験を行っています。多くの学生にとって英語論文を読むことは初めての経験となっており、専門用語を勉強しないといけないと感じる学生も多くいると思います。卒業研究では必ず英語の論文を読まなければなりませんので、そのための準備をしっかりとして欲しいと思います。3年生は研究室への仮配属が終わり、卒業研究に必要な知識や技術を学び始めています。論文検索などを行い、自分の研究がこれまでどのように進められてきて、今後どのようなことが解き明かされていくのかについて、勉強をスタートさせました。また、年明けには就職活動も始まるため、インターンシップや就職説明会に参加する機会が増えています。4年生は、就職や進学先が決まり、2月に行われる卒論発表会に向けて追い込みの実験を行っています。最近では、夜遅くまで研究室の電気がついていることが多くなってきました。良い結果をたくさん得て良い発表ができることを願っています。卒業研究は大学生活の核となるものです。努力した成果は必ず後の人生の糧となることでしょう。(秋廣助教)



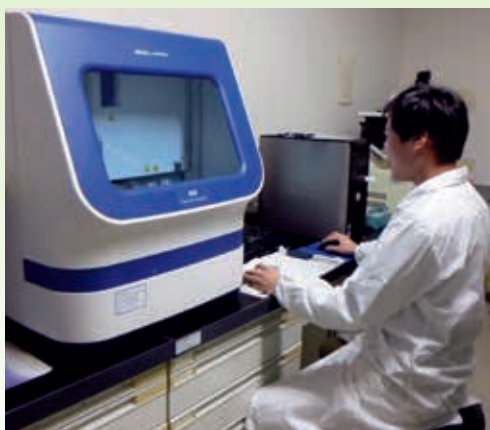
授業紹介 水圏・多様性生物学実験I

本実験は、2年生の後期に始まる必修の実験になり、複数の教員が分担して取り組みます。私の担当回では、大学バスで穴道湖をぐるっと一周して数カ所で水サンプルを採集するとともに、現場で水質調査を行います。その後、実験室で水サンプルに含まれるDNAの情報を調べて、生き物の生息状況を簡便に評価できる“環境DNA分析”を体験してもらいます。これらのことから、普段、講義等では野外に出る機会が少ない学生に島根県の身近な自然の魅力と実際を感じてもらい、さらに、最新の生物モニタリング手法に触れることで学術的な好奇心の刺激になるように取り組んでいます。



旧生命工学科 2~4年生

2年生は、前期から始まった多くの専門科目を履修することによって、専門性の高い知識を習得します。また、化学系の基礎化学実験や物理化学実験、生物系の基礎生命工学実験や基礎生化学実験などの基礎的な実験科目を通じて、実験技術や科学的な思考力を養うとともに、講義で習った内容についても理解が深まっていることと思います。3年生は、後期に5つの研究室に所属され、各研究室での専攻特別実験を通じてより実践的な実験技術の習得や研究に必要な専門知識を習得しています。卒業研究に向けた実験を指導教員や先輩の学生のもとで本格的に始めるとともに、卒業後の進路についても考える時期で、進学や就職に向けた準備も進めています。4年生は、大学生活を締めくくる卒業論文を仕上げている段階です。日々の実験によって得られた研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、2月に開催される卒論発表会では、口頭発表に加えてポスター発表も控えているため、忙しい日々を過ごしています。卒業研究を通じて得た考える力や課題解決能力は、社会に出てから、必ずや役立つことと思います。(戒能准教授)

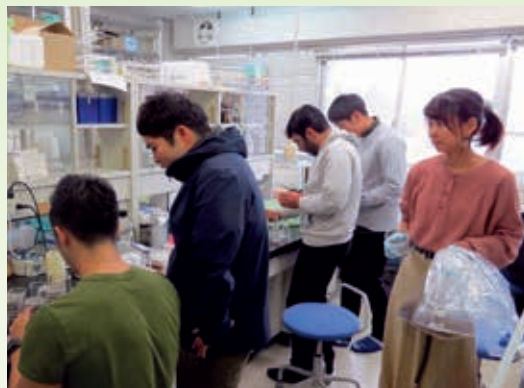


農林生産学科 1年生

1年生は、2年生の4月から資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学の各コースに分属し、それぞれの専門性を高めた講義や実習・実験を受講することになります。そのために分属説明会が開催され、各コースの教育研究内容について説明を受けました。後期からは分属時に参照される概論などの専門科目が増え、授業に専門性が増していきます。1年生は自分の志望を踏まえて1月には分属の希望を提出することになります。(高田助教)

農林生産学科 2~4年生

農業経済学コースの2年生は、飯南町獅子地区と雲南市吉田町民谷地区に通っています。獅子地区では、営農組合の担い手獲得や課題に関する調査を行い、獣害対策ネットの張り替え作業に参加しました。また、地域の魅力をTwitter「い〜なんししちく」で発信しています。民谷地区では、地域の郷土料理教室、地区の稲刈りイベントに参加し、参加者同士の交流促進を行いました。農林生態科学教育コースの2年生は、微生物生態、植物病理、昆虫生態に関する実験授業を受講し、専門的な研究手法を勉強しています。3年生は、各研究室で自らの研究テーマに取り組んでいます。4年生は、卒業論文作成のために研究のラストスパートに入っています。森林学教育コースの3年生は、益田市匹見町を訪れ森林調査を行い、バイオマス発電所、合板工場などを見学しました。現在、3、4年生は研究室に所属して卒業研究に取り組んでおり、一部の研究室では、学会に参加し報告者への質問を行うなど積極的に情報収集を行っています。農業生産学教育コースの4年生は、これまでの研究を特別研究論文としてとりまとめるため、実験で得られた試料を用いて行った化学分析や実地調査の結果の解析に追われています。2月8日に行われる発表会に間に合うよう、1月は論文の執筆に忙しいシーズンになります。(高田助教)



環境共生科学科 1年生

環境共生科学概論や教養科目などの講義で勉強しています。環境共生科学概論では、学科全教員の研究内容について理解を深めています。2年生になった時に、環境生物学、生態環境学、環境動態学、地域工学から1つのコースを選び、選択したコースで専門的な知識や技術を身に着けます。講義で得た知見や教員の研究内容、卒業後の進路を念頭に置きつつ、どのコースを選択するかを考えている最中です。(林助教)



(旧)地域環境科学科 2~4年生

平成最後の年度も残すところあと数カ月となりました。本年度は、各地で良いニュースや悪いニュース、様々なニュースが飛び交う、記憶に強く残る年度となりそうです。

地域環境科学科では、4年生、3年生、そして2年生が、それぞれの段階で学究に勤しんでいます。4年生は卒業研究に取り組み、結果を考察し、まとめ、発表する準備に取り組んでいます。研究室ごとに異なるテーマ、例えば室内実験、フィールド観測、数値解析、理論解析等、与えられた独特のテーマに対する答えを見出そうとしています。2年生は、この後期から各教育コースに配属されました。生態環境科学、環境資源工学、地域工学という3コースに分かれましたが、各コース独自の点と共通点の双方を意識しながら、自身のスキル練磨や知識獲得に力を注いでくれればと思います。3年生はこの後期から各研究室に配属されました。来年度から卒業研究をスムーズに開始するための、確固たる基盤を整えられるように邁進しています。各学生が着実に何かを得ており、有意義な大学生活を送っています。(吉岡助教)



平成30年度成績優秀者・正課外活動優秀者を表彰

【成績優秀者】

塩見まみや 佐藤 隆人 DAI MING 逸見 周平
 原田 美帆 上野 祐美 森本 涼介 丸山 里奈
 戸澤 碧 河野 瑞基 西田 香織 森本由利子

【正課外活動優秀者】

山下 佳奈 杉本 琢隼 (敬称略14名)



7月20日(金)、平成30年度の成績優秀者と正課外活動優秀者の表彰式を執り行いました。成績優秀者12名、正課外活動優秀者2名が学長から認定され、その内11名が表彰式に出席し、井藤学部長から賞状と記念品を受け取りました。

成績優秀者は、前年1年間の学業成績に基づき、2年生以上の各学年・各学科最上位の学生が選出されます。正課外活動優秀者は、学力基準を満たした4年生のうち、正課外のボランティア活動・地域貢献活動・学内委員活動等による通算獲得ポイントが上位2名の学生です。

いずれも今年度後期分の授業料が半免されるといふ特典があり、就学上の大きな励みとなっています。

卒論・修論発表会、研究活動発表会を開催

生物資源科学部では卒業論文発表会を、生物資源科学研究科では修士論文発表会を開催しています。発表会では毎回活発な質疑が行われており、学生にとって日々の研鑽の成果を披露し、また自らの研究を深める貴重な機会となっています。

主な発表会の開催予定

発表会名	発表者	
生物資源科学部 卒業論文発表会	学部4年	
学 科	コ ー ス・分 野	日 程
生 物	生物科学教育コース	2019年2月12日(火)
生 命 工	生命工学教育コース	2019年2月16日(土)
農林生産	農業生産学教育コース	2019年2月 8 日(金)
	森林学教育コース	2019年2月13日(水)
	農林生態学教育コース	2019年2月 8 日(金)
	農村経済学教育コース	2019年2月 7 日(木)
地域環境	生態環境工学分野	2019年2月12日(火)
	生物環境情報工学分野	2019年2月12日(火)
	地域環境工学分野	2019年2月12日(火)

発表会名	発表者	
自然科学研究科 研究活動中間発表会	修士1年	
コ ー ス	日 程	
3コース(環境共生科学、生命科学、農林生産学) 合同開催	2019年1月30日(水)	
発表会名	発表者	
生物資源科学研究科 修士論文発表会	修士2年	
専 攻	分 野	日 程
生物・生命	生物学分野	2019年2月 7 日(木)
生 命 工	生命工学分野	2019年2月19日(火)
農林生産	農業生産学分野	2019年2月12日(火)
	植物病理学分野	2019年2月12日(火)
	森林環境学分野	2019年2月13日(水)
	農林・資源経済学分野	2019年2月 7 日(木)
環境資源		2019年2月13日(水)

学会等における受賞者

受 賞 者	受 賞 内 容
須貝 杏子 特任助教(生命科学科)	Plant Species Biology Best Paper Award 2017受賞
山口 陽子 特任助教(生命科学科)	平成30年度花王科学奨励賞
吉岡 秀和 助教(環境共生科学科)	日本応用数学会2017年度若手優秀講演賞
戒能 智宏 准教授(生命科学科)	2018年度日本農芸化学会中四国支部奨励賞
佐藤 邦明 助教(環境共生科学科)	第29回廃棄物資源循環学会研究発表会優秀ポスター賞
上野 和広 助教(環境共生科学科)	農業農村工学会中国四国支部講演会平成30年度支部賞(奨励賞)

平成30年度島根大学学位授与式 (松江キャンパス)について

日時／平成31年3月22日(金)10:00~
 会場／島根県民会館
 (島根県松江市殿町158)